



尼崎・玉江橋付近を走る201形 (1975年3月4日)

阪神電鉄が1905年4月12日、神戸(三宮)―大阪(出入橋)間の鉄道営業を開始してから、今年開業120周年を迎える。阪神甲子園球場の開設、六甲山上の開発などレジャー事業にも注力し、沿線の人口、集客増に貢献してきた。同球場がある西宮市、創業時に本社を置くなどした尼崎市。それぞれゆかりがある海洋冒険家の堀江謙一さんと、漫画家の尼子騒兵衛さんに阪神電鉄との関わりや思い出について聞いた。



第1回 (4回続きシリーズ)

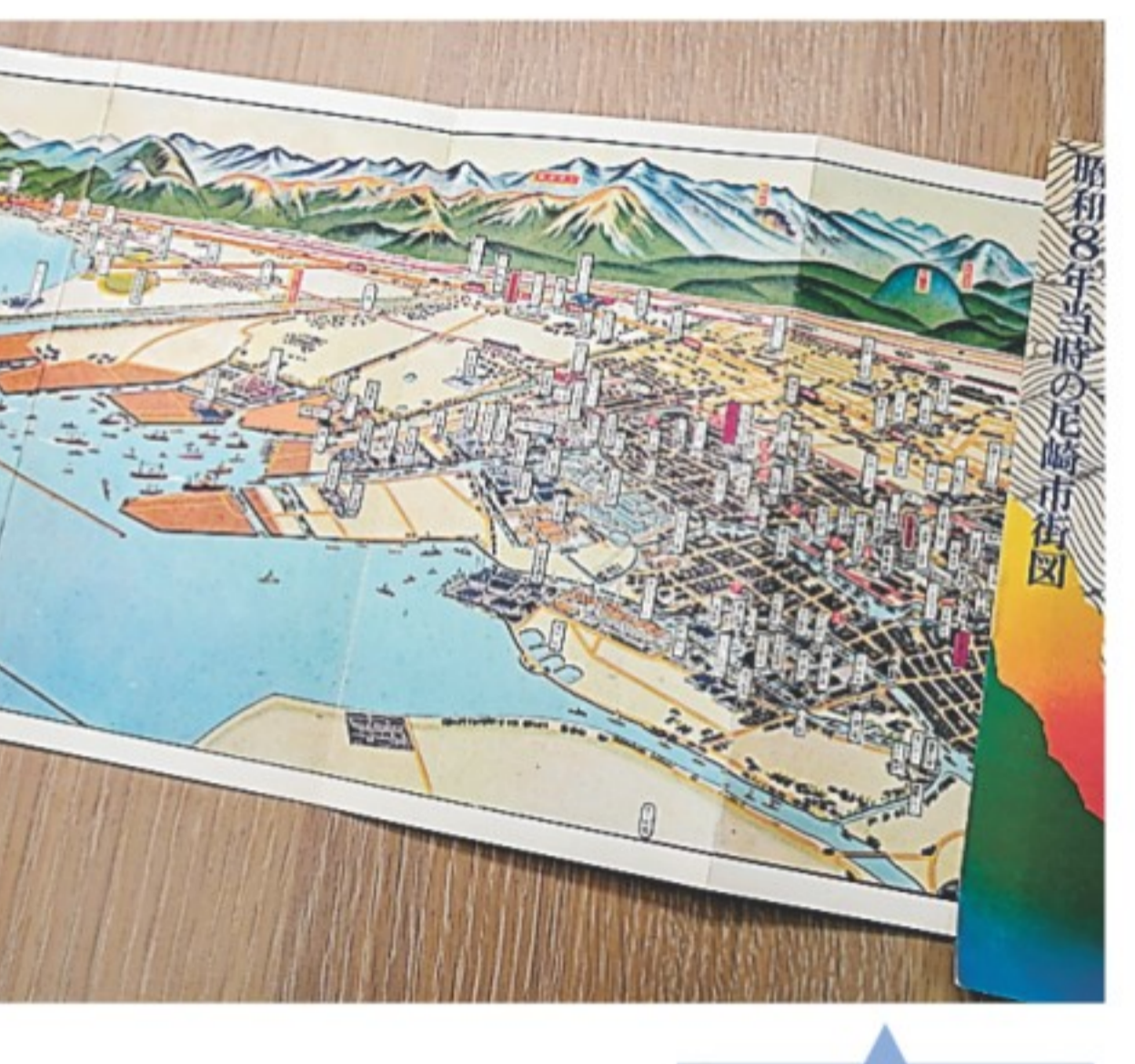
# 感性磨いた日々 身近に



## 漫画家 尼子 騒兵衛 さん

「阪神電車の思い出は、(笑) (女忍者) などで年齢は言えませんが、尼崎城に近い築地で生まれ育ちました。最寄り駅は尼崎駅。だから「電車」と言えば阪神電車でした。子どもの頃には家族で阪神パークに行ったり、夏にはお弁当を作って電車で武庫川駅まで行って泳いだり。昔は武庫川で泳げませんでした。母が熱心な阪神ファンで、そのまま甲子園球場に野球観戦へ、というも度々でした。尼崎って大阪にも神戸にも京都にもすぐ行けて、大都会ほど下町でも古都ほどエ

「阪神電車の思い出は、(笑) (女忍者) などで年齢は言えませんが、尼崎城に近い築地で生まれ育ちました。最寄り駅は尼崎駅。だから「電車」と言えば阪神電車でした。子どもの頃には家族で阪神パークに行ったり、夏にはお弁当を作って電車で武庫川駅まで行って泳いだり。昔は武庫川で泳げませんでした。母が熱心な阪神ファンで、そのまま甲子園球場に野球観戦へ、というも度々でした。尼崎って大阪にも神戸にも京都にもすぐ行けて、大都会ほど下町でも古都ほどエ



「乱太郎」も尼崎から生まれた。そんな尼崎の地名がキャラクター名の由来になったのが、1986年に連載が始まった漫画「落第忍者乱太郎」です。元々時代劇や歴史が好きで、尼崎の古地図を眺めていると「時代劇にぴったりの地名が多いな」と気付いたんです。城下町だった阪神沿線にとまらざる。

地名をキャラクターに使ったのは、尼崎には古代からの営み

## 「乱太郎」通じ歴史に興味を



「落第忍者乱太郎」に登場する兵庫水軍の海賊たち。原画とラフスケッチ

## 1905～

### 電気鉄道の先駆けとなる 新たなビジネスモデルへの挑戦

日本で初めて「都市間を軌道高速の電気鉄道で結ぶ」というビジネスモデルに挑んだ阪神電気鉄道。当時の日本は、日清戦争後の反動的な不況で不安定な時代でしたが、人々のより良い暮らしのために電気鉄道をはじめとした近代的な生活様式への移行が必要と信じて工事を推進。「電気」という新しいエネルギーを用いた鉄道、大型ボギー車によるフリークエントサービスによって、大阪～神戸間を結びました。



旧1形(1906年)

### 電気鉄道を表すシンプルな社章

阪神電気鉄道の社章は、レールの断面を稲妻で囲むデザインで、電気鉄道の意味を簡明に象徴しています。阪神電車の開業当時、鉄道と言えば蒸気鉄道であり、電気鉄道は小型の市内電車や短距離の遊覧電車のみでした。日本で初めて、本格的な広軌高速による都市間大型電車を運行した会社として、電気鉄道であることを表す以外に、他社との識別の必要がなかった当時の特色がうかがわれる社章となっています。



阪神電気鉄道の社章

## 「阪神」に乗ってお出かけ

「阪神」に乗ってお出かけ。尼子さんが創作の参考にしていく尼崎の古い地図。あり、平安時代の辞書「和名類聚抄」にも登場します。潮江、杭瀬などの地名をたどると昔の海岸線が見えてくる。武將の勢力図も浮かぶ。文化的存在。でも、それが区画整理などで次々に失われていく。「本当にそれでいいの？」というアンチテーゼだ。作品をきっかけに全国から観光客が訪れる。病気のため、連載は2019年で終了しましたが、アニメは今年で放映32年目、最新映画も公開され、全国からファンが地名巡りに来てくださる。最初は驚きましたが、地名が記された街並みや道路標識を見て写真を撮り「キャラクターがここを通ったのかな」と想像の世界で遊ぶ。それを街の人たちも温かく見守る。大々的に観光地化しなくてもそんな形がいいな、って。貴布禰神社の祭礼で、名前の由来になった町の地車が並ぶのを想像するだけで楽し

## 阪神電鉄ダイアリー

Hanshin



1964年2月9日 開業58年目

## 海洋冒険家 堀江 謙一 さん

数多くの冒険的航海を成し遂げてきた。その原動力は、僕のヨット人生は1954年に開大―高の大阪府吹田市のヨット部に入ったことから始まり、それから西宮で練習するようになった。専門誌を読んでいると太平洋横断、世界一周の話題が載っていて、海に向かう土地に行つてみたいという気持ちが募った。62年にヨットでは世界初単独無寄港太平洋横断を成し遂げた時、これ以上のものはないと思つてた。ところが、その後イギリス人が単独ワンストップ(一カ所だけ寄港)世界一周をしたという話を聞

## 車窓から波を確認し港へ

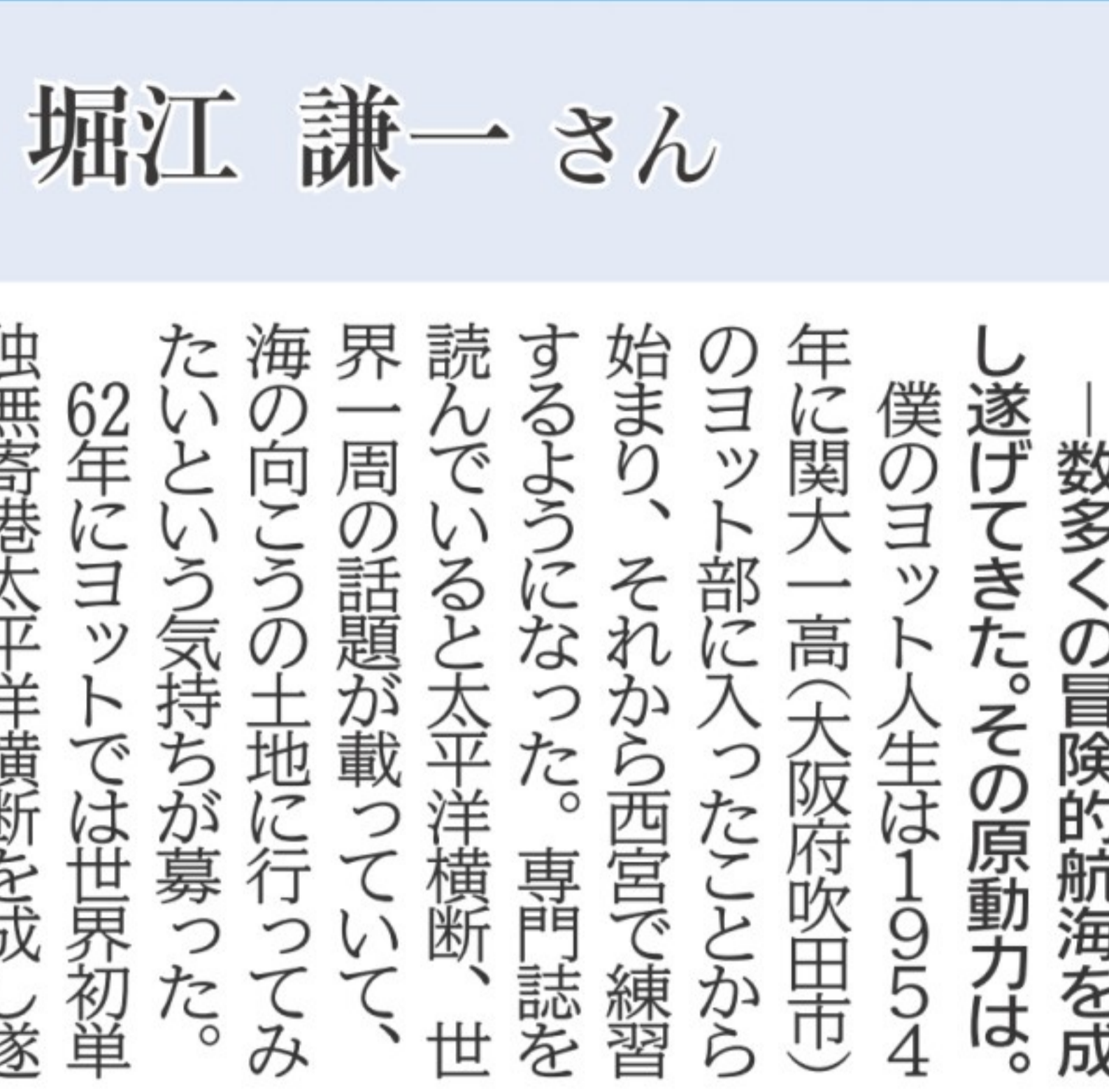
単独無寄港太平洋横断を達成し、大勢の人たちに迎えられるヨットハーバー。単独無寄港太平洋横断を達成し、大勢の人たちに迎えられるヨットハーバー。

## 100歳までヨットで挑戦

「阪神電車にのりての思い出は、開大―高のあった千里山から阪急電車と梅田にいったん出て、そこから阪神電車に乗り換えて西宮に向かった。電車の中では必ず立って海側の風景を見ていた。特に淀川橋梁を渡る時は、河口側に見える海の波の様子を見て風の見合をつかみ、試合があ

## 夢を夢で終わらせず、夢を

「若い世代に伝えたいこと。夢を夢で終わらせず、夢を



「阪神電車にのりての思い出は、開大―高のあった千里山から阪急電車と梅田にいったん出て、そこから阪神電車に乗り換えて西宮に向かった。電車の中では必ず立って海側の風景を見ていた。特に淀川橋梁を渡る時は、河口側に見える海の波の様子を見て風の見合をつかみ、試合があ

## 世界一周達成を

「世界一周達成を目前に、周遊への支援者に手を振る。2000年6月。目標にして頑張つてほしい。そのためには勇気を出して行動を起こすことが大事だ。経験を積んでいくと「111」が5にも10にもなり、見える世界ががらりと変わる。83歳で世界最高齢単独無寄港太平洋横断に挑んだが、100歳まではチャレンジを続けたいと考えている。

## 2度目の単独無寄港

2度目の単独無寄港世界一周を達成した時(2005年6月)のヨット。現在新西宮ヨットハーバーに永久展示されている



「世界一周達成を目前に、周遊への支援者に手を振る。2000年6月。目標にして頑張つてほしい。そのためには勇気を出して行動を起こすことが大事だ。経験を積んでいくと「111」が5にも10にもなり、見える世界ががらりと変わる。83歳で世界最高齢単独無寄港太平洋横断に挑んだが、100歳まではチャレンジを続けたいと考えている。

## 「たいせつ」がギョッと。

Hanshin Group

## 「たいせつ」がギョッと。

Hanshin Group

Advertisement for Hanshin Electric Railway featuring a modern train (5700 series) and the slogan '私たちが届けてきた『先進性』とは' (The 'Advancedness' we have delivered). It highlights the company's commitment to innovation and safety, with a QR code for more information.

Advertisement for the 120th anniversary of Hanshin Electric Railway, featuring a historical train (Type 1) and the slogan '120年ずっと、想いはひとつ' (120 years, one thought). It emphasizes the company's long history and dedication to service.



阪神電気鉄道120周年

第2回

(4回続きシリーズ)

阪神電鉄が1905年4月12日、神戸（三宮）―大阪（出入橋）間の鉄道営業を開始して以来、今年で開業120周年を迎える。尼崎市と西宮市は歴史的なつながりが深く、現在のまちづくりに欠かさない存在だ。松本真市長と石井登志郎市長、尼崎市出身のレーシングドライバー小林可夢偉さんに、阪神電鉄との関わりや思いについて話を聞いた。

# 開業以来の縁 なお深く



現在の甲子園駅の場所に架かっていた枝川鉄橋を走る旧1形電車

## 西宮市 石井 登志郎 市長



阪神電鉄と西宮市の関わりは、1905年、阪神電鉄が大坂―神戸間を線路で結んだことで、西宮にさまざまなインパクトがあった。当時、村落の中心部を結んだ曲がりくねった線路を通じたことで、沿線住民の足としての役割を担う意思が感じられる。電車を走らせるため発電所も整備したことにより、沿線地域の電力供給源としての機能も果たした。また、周辺の土地を活用して24年に甲子園球場、29年に甲子園球場（後の甲子園阪神パーク）などを整備し、にぎわいづくりや人口増にも貢献した。

西宮市は25年、関西では12番目に市制が施行された。それまでの11市は県庁所在地か、かつての城下町か商都。いわばお上によって栄えたまちであったのに対し、西宮は酒蔵や電鉄会社など「民」の市であり、阪神電鉄はその立役者でもある。

その後も阪神電鉄との関わりは深くなった。阪神・淡路大震災で西宮市も阪神電鉄も甚大な被害を受け、しばらくは復旧で手いっぱいだった。2020年から20歳のついで（旧成人式）の会場として甲子園球場を使わせていただくことにな



り、阪神電鉄が以前にも増して地域との関わりを大切にしようとする姿勢を感じるようになった。この10年で、市や阪神電鉄のさまざまなプロジェクトが動き始めた。その一つが、鳴尾駅（現鳴尾・武庫川女子大前駅）付近の鉄道高架化で、高架下空間に武庫川女子大学の施設が入った。甲子園駅近くでは、甲子園球場までに商業施設や円形広場、タイガースロードが新たにでき、スポーツを核とした地域活性化の取り組みも始まった。現在は西宮駅北地区で、公民連携事業が進んでいる。40階前



阪神甲子園球場のスタンドを埋める晴れ着姿の新成人たち 2023年1月

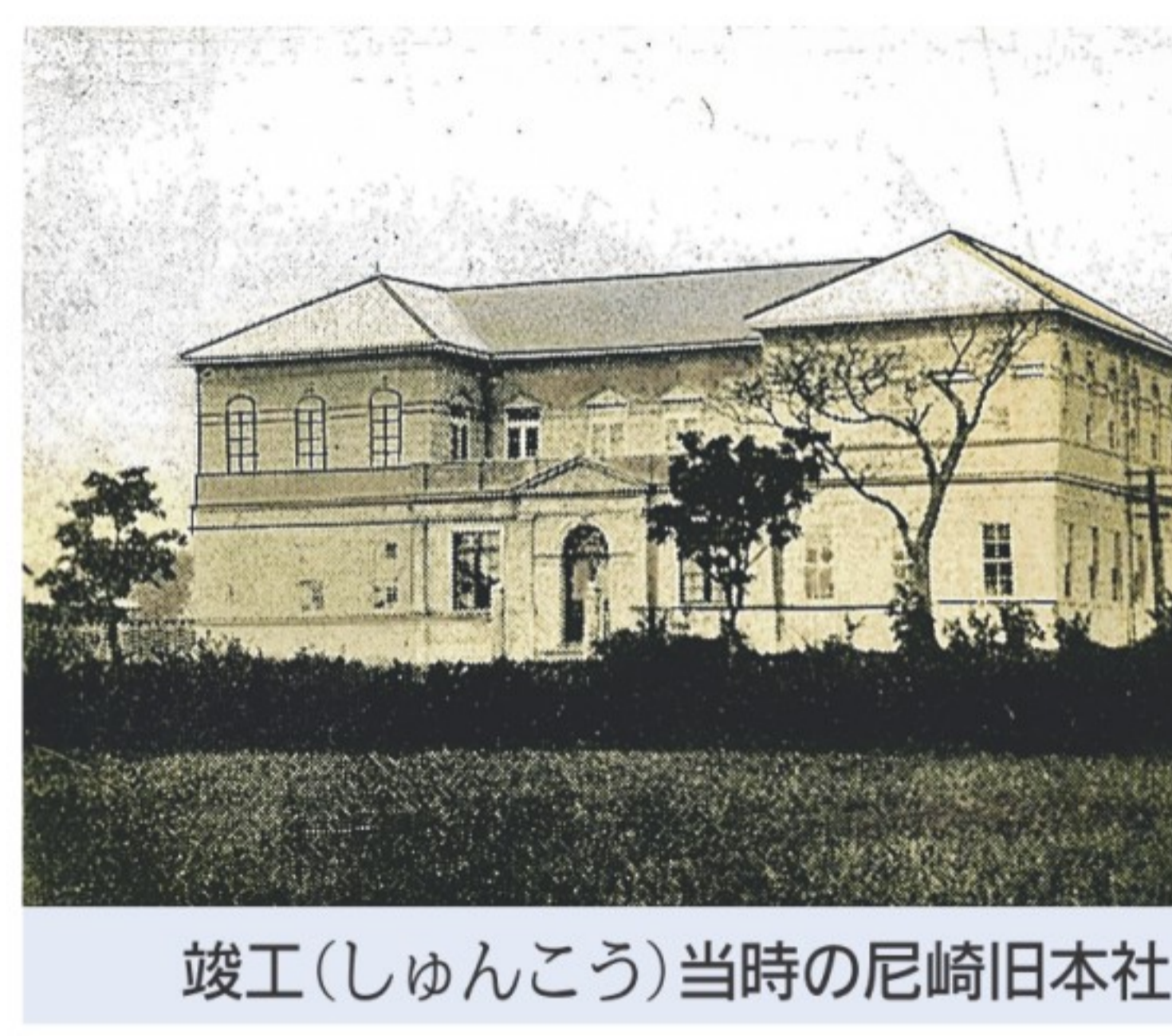
## 沿線価値向上へ二人三脚

後の住宅棟や図書棟、バスロータリーなどが整備され、31年12月に完成する予定だ。阪神タイガースへの期待は、今年が球団創設から90年。チームとしての活躍ももちろんだが、西宮出身の佐藤雅昭選手と下村海翔選手の活躍も期待したい。西宮市の良いところは、今年市制100周年を迎える。その記念冊子に登場していただきたい阪神タイガース前監督の岡田彰布さんが、西宮市を「ちよつとい街」と表現していた。そしてこ都会でありながら、海も山もゴルフ場にもすぐ行くことができる。そして大阪へは20分。これからは阪神電鉄と沿線価値の向上のため、二人三脚で歩んでいきたい。

## 尼崎市 松本 真市長



阪神電鉄と尼崎市は歴史的にどのようなつながりがあるのか。明治時代に入り、舟運に置き換わる形で鉄道網の整備が進んだ。1905年、大坂―神戸間の全線開通により開業した阪神電鉄は、尼崎に車両工場と車庫を設け当初は本社も置いていた。沿岸部には62年まで海岸線が走っており、75年までは国道線という路面電車も走っていた。阪神電鉄は尼崎の産業、生活を支え、街に寄り添ってきた。



竣工(しゅんこう)当時の尼崎旧本社

「まちの現状をどう捉えているか。尼崎は高度成長期、南部地域に工場が集積し、商業が発展し、住宅の開発も行われてきた。ただ、



3月にオープンする阪神タイガース2軍球場「日鉄鋼板SGLスタジアム尼崎」ニ崎市杭瀬南新町3

まちの成熟化とともに人口の減少や空き家の増加などの課題も抱えるようになった。一方で、大阪に隣接する利便性が注目され、若いファミリー世帯も流入が増えている。現在はJR尼崎駅周辺でその動きが顕著だが、いずれ阪神沿線にもその流れが来る。そこで、新たなまちの価値を生み出すべく、さまざまな施策を打ち出している。

## 重要性増す交通の結節点



大正初期の尼崎駅

芝生広場を設け、ベンチやテーブルなど、ゆつくりしていただけの環境を整えるほか、飲食店を誘致するなど若い世代も楽しめるようにした。観光資源の要である尼崎城の運営についても阪神グループにお願いしている。阪神タイガースへの期待を、藤川球児監督の下、今シーズンも好成績を期待している。また、2軍球場から1人でも多く、1車で活躍する選手が巣立っていくよう応援したい。

## 街の産業と生活の基盤に

## 重要性増す交通の結節点

2021年にまちづくり協定を締結し、目玉の一つである「ゼロカーボンベースボールパーク」が3月にオープンする。小田南公園には環境に配慮した阪神タイガースの2軍球場と選手寮、さらには市民球場も整備。球場や公園スペースを生かし、野球教室やイベント開催も予定しており、市民はもちろんだが、神戸からの集客の起爆剤としても期待している。また、阪神尼崎駅北の中央公園が、3月にリニューアルオープン

も取り組んでいる。新たなまちづくりに向け、阪神電鉄とのさまざまなプロジェクトが進む。

## 鈴鹿方面へ臨時運行に驚き



小林可夢偉選手への応援を広げるため、阪神電車の沿線に掲げられた応援旗ニ崎市西御園町



2021ルマン24時間総合優勝を果たした

「阪神電車の印象は。阪神電車の沿線で育ったので生活の一部だった。阪神パークにもよく遊びに行った。阪神電鉄が1905年に開業して120年。お客さまの「たいせつ」に向き合い「阪神らしさ」を育んできました。つながりが生む「あたたかさ」。プロフェッショナルが生み出す「ほんまもん」。共感から生まれる「先進性」。お客さまの「たいせつ」がギョッと。」つまったモノやコトを生み出しお届けしていく、阪神グループの物語を順次公開しています。

「幼い頃を過ごした尼崎の思い出は。僕が育った尼崎は超下町で、たまに帰った時でも、昔から知っている人たちが今も仲良く話してらっしゃる。100円で食べられるたこ焼きやホルモン焼きが今も残っており、久しぶりに帰った時も食べたと思うほど。モータースポーツというとセレブな世界を思い浮かべる人が多いと思うが、僕のような下町で育った人間がレーシングドライバーになれたことは不思議な感じがしている。

「僕らが住んでいた頃と比べると、尼崎はすごく住みやすくなった。大阪からのアクセスもすごく良く、皆さんにとって住みたいまちと言っていたことがとてもうれしく、誇りに感じる。新しい建物はたくさんできていますが、その中に人間味あふれる下町を感じられる場所も残っている。そういう場所に足を運んで、尼崎らしさを感じてほしい。



「ただでなく動物もいたのは子どもながらにすごい世界だと思った。ゴカートにもよく乗って、右、左にハンドルを回す。阪神電車のテレビCMも面白かった。阪神甲子園球場には車じゃなくて電車に乗ってというダイレクトな内容で、印象に残っている。阪神電車でいえば一番の思い出は、鈴鹿F1グランプリで、阪神電車が尼崎からお客様さんを連れてくるためにサーキットの最寄りの駅まで直通の臨時列車を運行してくれたことだ。尼崎から鈴鹿の方まで線路が繋がっているという感じがまだに信じられない。



2024年9月、F1世界耐久選手権富士6時間レースでの小林可夢偉さん

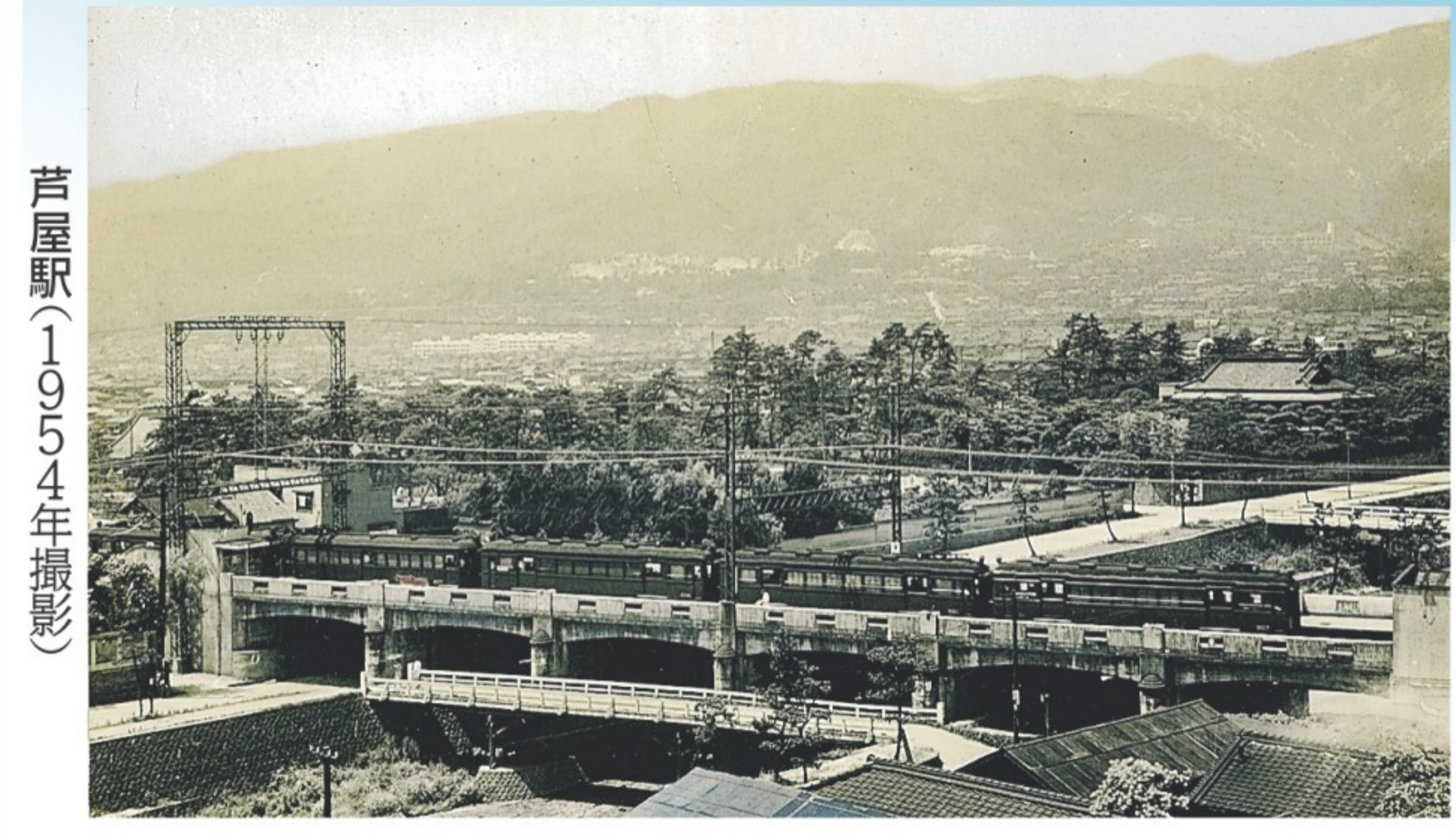
## 阪神電鉄ダイアリー Hanshin



1959年2月23日 開業53年目



1972年10月5日、阪神電鉄で最初の自動改札機が尼崎駅に設置された



芦屋駅(1954年撮影)

阪神電鉄が1905年4月12日、神戸(三宮)―大阪(出入橋)間から鉄道営業を開始して以来、今年で120周年を迎える。芦屋市には開業時から駅が設置され、文化の薫り高い、住宅都市のまちづくりの礎となった。同電鉄との関わりや思い出について、作家小川洋子さんと芦屋市長の高島峻輔さんに聞いた。



阪神電気鉄道120周年

# 住宅都市醸成への礎に

第3回  
(4回続きシリーズ)



作家 小川 洋子 さん

「芦屋で暮らし始めた時に感じた街の印象は。岡山から大阪に転勤が決まった主人は中学、高校時代に隣の西宮に住んでおり、「いつか芦屋に住んでみたい」という夢をかなえるため家を探した。阪神間の海は世界に開かれた多くの文化を受け入れてきた。大阪の商人が住みつき、文学や美術、音楽などの薫り高い文化を育んだ。村上春樹の私小説は、芦屋出身の村上文学の世界に踏み込めるという夢を叶えた。この歌を聴いて、温かい霧の空気が、この場所から生まれたのかと思いつきながら街を散歩するのが楽しかった。」

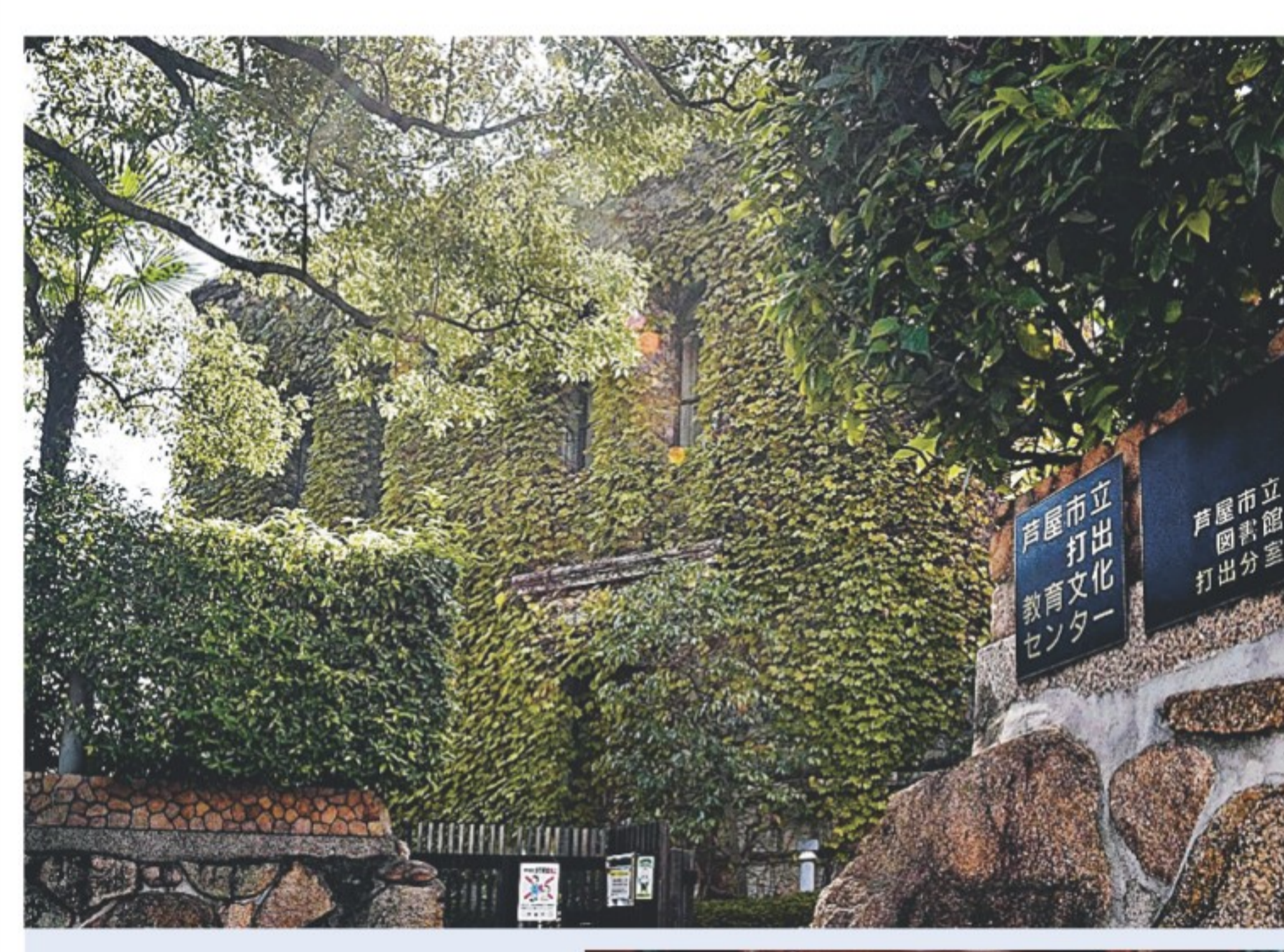
小説「ミナナの行進」は、芦屋の洋館で暮らす少女の物語。引越して程なく新聞連載の依頼があり、絶対この街を舞台に書こうと思った。しかも自分が一番多感な少女だった頃の昭和40年代を描きたかった。昔から住んでいる人に当時の様子を聞いたり、古い新聞や本を調べたりしながら



## 「電車で甲子園」夢のよう

「ミナナの行進」外国語版。左から中国語、韓国語、オランダ語、英語の各版

## 自然と文化 今後も大切に



想像を膨らませていった。日本にフランスパンを持ち込んだピゴさんのお店のことや製菓会社の社長の邸宅に小さな動物園があったことなどさまざまなエピソードと当時の出来事がつながって一つの世界が広がった。



「甲子園球場の思い出は。階段を上って観客席に出た時の開放感が格別で、世俗の

小さな悩みを全て忘れることができる。試合を終えた後、勝っても負けても「こうだった、ああだった」といながら甲子園駅まで人混みの中を歩く時間がまた貴重な。私たちは毎回チケット代を払って、勝つとも負けるとも分らない、まだ見ぬ未来を買っている。未来を買って買える人生なんて選べた人しか経験できないことを、若い選手たちを知ってほしい。芦屋のお薦めスポット

孫は魚が好きで、芦屋川の河口を下った海で網を使ってカニやハゼを捕って遊んでいる。山側を奥池まで上がると鳥のさえずりが聞こえ、心が落ち着く。市立美術博物館には洋画家・小出楯重のアトリエが復元され、すぐ隣には谷崎潤一郎記念館がある。芦屋が育んだ文化をこれからも大切に守ってほしい。

芦屋市 高島 峻輔 市長



「阪神電鉄と芦屋市の関わりは。芦屋市には全部で四つの鉄道駅があるが、阪神電鉄だけ2駅(芦屋駅、打出駅)。いずれも阪神本線開業と同時に開設され、芦屋市がその後、住宅都市として発展していく礎となっただけでなく、芦屋駅周辺には公共施設も整備された。芦屋市役所は真内でも駅に近い役所ではないかと自負している。近年、阪神電鉄の線路北側を東西に走る道路「鳴尾御影線」沿いからJR芦屋駅にかけた「ブランドینگエリア」ではおしゃれな店がどんどん誕生し、魅力



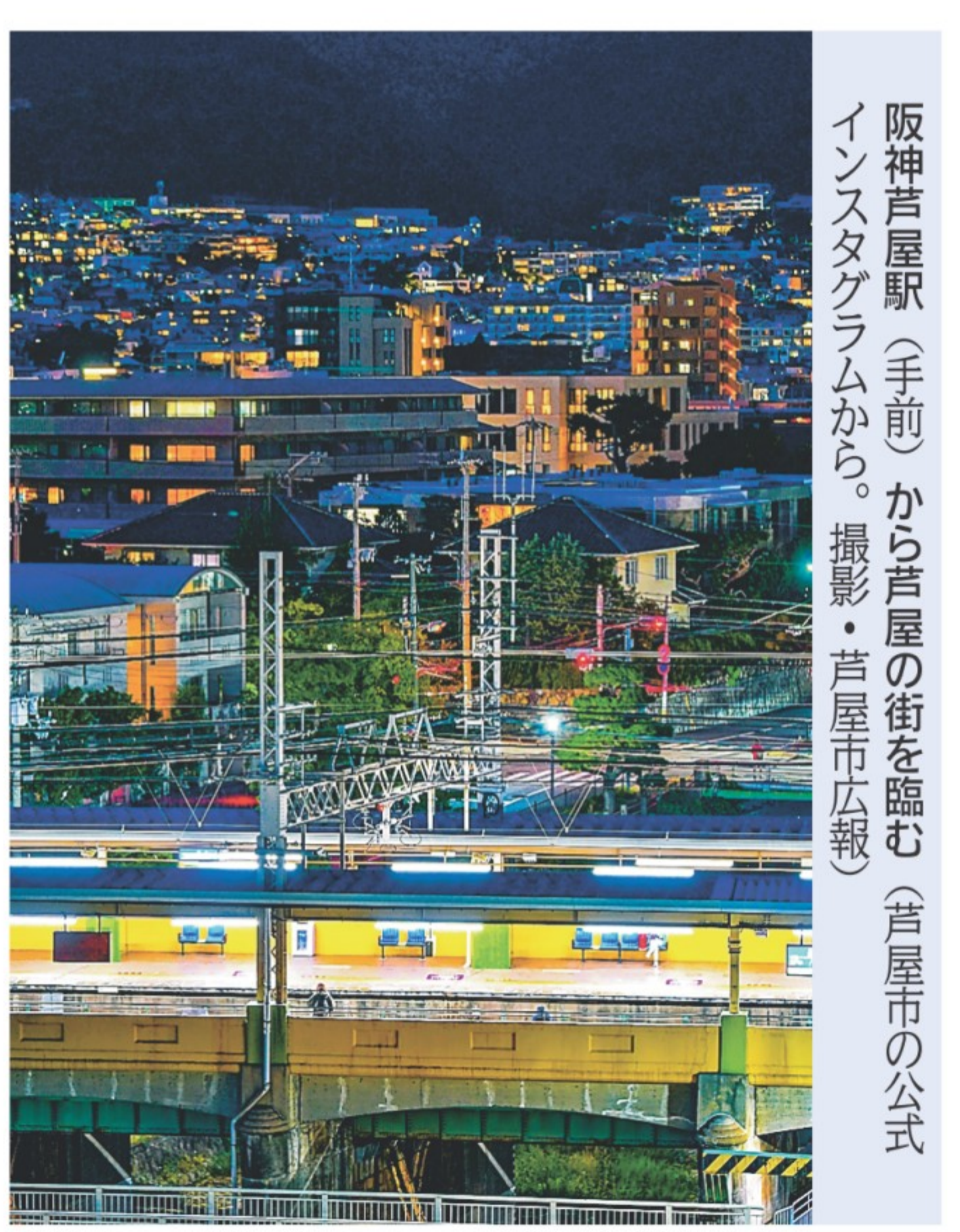
的なエリアになっている。阪神電鉄と連携したまちづくりについて。行政機関が集中する芦屋駅周辺は市中心部の一つで、阪神電鉄との関係者を交え、日常的に親しんでいただけの歩きやすいエリアになるよう、まちづくりの議論も始めている。例えば周辺道路のリアフリー化もその一つ。また、阪神本線に九つ残っている踏切のうち七つが芦屋市にあることから、安全の確保などについても一緒に検討を進めていきたい。

## 線路周辺の安全共に検討

業平橋(国道芦屋川停留場) 1905年4月発行の「阪神電鉄」輸送委任の五十年」から

## 市民と対話し価値向上を

「エンカチ(沿線価値向上)」というキーワードでさまざまな取り組みを進めている。芦屋市も歩調を合わせ、山から海までが近く、神戸、大阪にもアクセスが良い環境を生かし、子育てがしやすい環境をさらに整え、市民との対話を踏まえながらまちの価値向上を図ってきたい。



阪神芦屋駅(手前)から芦屋の街を臨む(芦屋市の公式インスタグラムから。撮影・芦屋市広報)

「阪神電車の思い出は。小学校1年生の時にテレビで阪神タイガースの試合をよく見るようになった。その年(2003年)に優勝した。それがうれしくてさらにファンに。甲子園球場での観戦を終えた帰りの阪神電車が、勝った時と負けた時とは雰囲気がいまいち違ったのを覚えている。2005年にリーグ

優勝を決めた試合も球場で見たくも忘れられない。芦屋のご当地自慢を。私が一番好きなのは芦屋川だ。高い建物があるのに多くないことに加えて、市道にないのは全国市町村で無電柱化率が最も高いことから、空が広いことが特長だ。6月ごろに上流へさかのぼれば、ホテルも乱舞している。また、さまざまな景観を楽しむことができ、市民の皆さんもそれぞれ好きなスポットがあるようだ。私のお薦めは、芦屋川の上にある阪神芦屋駅からの眺め。山側には六甲山を背景にヨドコウ迎賓館が見える。これからの季節も見応えがある。阪神電車からの景観でいえば、踏切から西側を見た時にきれいな夕日が沈む景色は映える。ぜひ一度遊びに来てほしい。

## 阪神電鉄ダイアリー Hanshin



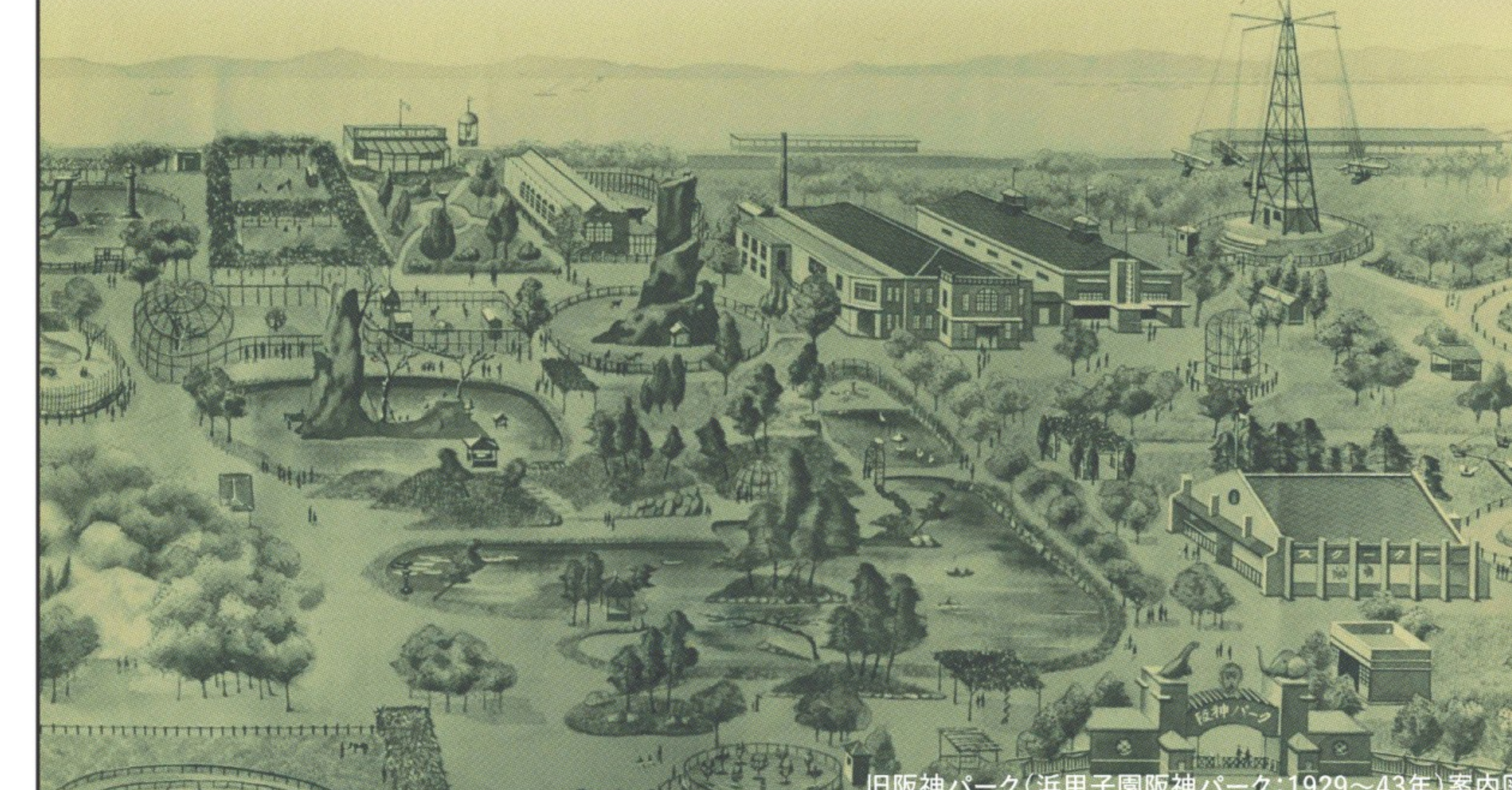
元町駅に停車中の特急(1936年3月18日撮影) 戦時体制の乗客数急増を受け、平日朝夕の混雑時に本線特急の6両連結運転を開始しました。軌道法に基づく6両連結運転は日本で初めて。戦後も他社に先駆けて急行運転を再開するなど、「みなさまの足 阪神電車」として先進性やあたたかさへの思いは今も変わりません。

1942年3月16日 開業36年目

## 1905~

### エンタテインメント事業の第一歩は海水浴場

阪神グループでは、120年にわたり様々なエンタテインメント(娯楽施設)を提供してきました。最古は、鉄道開業と同じ1905年に開設した打出海水浴場。2年後に香櫛園海水浴場へと移転した後、1913年に廃止された香櫛園遊園地の音楽堂・公会堂を同所へ移設し、私下げを受けた西宮旧砲台跡地をビヤホールとして活用するなど、多くの海水浴客で賑わいました。現在まで続くエンタテインメント事業の先駆的な取り組みであったと言えます。



旧阪神パーク(現甲子園阪神パーク・1929~43年)案内図

## ~2025 to the future

### 広がるHANSHINのENTERTAINMENT

平成以降も、音楽分野で、ビルボードライブ(東京・大阪・横浜)やビルボードクラシックなどのビルボード事業を全国展開しているほか、小学生からシニア世代まで音楽に親しめるミュージックスクールも開講しています。2024年にはインバウンド向け相模エンタテインメントショーホール「日楽座」を開業するなど、お客様とのつながりを「たいせつ」に、エンタテインメント事業の領域を拡大しています。



ビルボードライブ大阪

## Hankyu Hanshin Toho Group

### 「たいせつ」がギュッと。 Hanshin Group

阪神電車が1905年に開業して120年。お客さまの「たいせつ」に向き合い「阪神らしさ」を育んできました。つながりが生む「あたたかさ」。プロフェッショナルが生み出す「ほんまもん」。共感から生まれる「先進性」。お客さまの「たいせつ」がギュッと。つまったモノやコトを生み出しお届けしていく。阪神グループの物語がここにあります。



詳しくはこちら



阪神電気鉄道120周年

阪神電鉄が1905年4月12日、神戸(三宮)ー大阪(出入橋)間から鉄道営業を開始して以来、今年で120周年を迎える。神戸市には開業時から14の駅を設置し、六甲山の開発を先導するなどしてきた。シリーズ最終回は、建築家の安藤忠雄さんと久元喜造・神戸市長に、同電鉄との関わりやまちづくりについて聞いた。

# まちと一体、生活に密着

第4回 (4回続きシリーズ)



三宮の地にあった「神戸駅」より南に1912年開業した「薄道停留場」(同年11月)



建築家 安藤 忠雄 さん

「安藤さんにとって神戸とはどんなまちか。神戸は駆け出しの頃から多くの仕事を手がけた思い出のあるまちだ。1960年代に三宮地下街の仕事に携わり、70年代以降は北野町の「ロースガーデン」「北野アレイ」などの商業ビル、灘区の「六甲の集合住宅」も設計した。阪神・淡路大震災が発生した日、私は仕事でロンドンにいた。予定を全てキャンセルして帰国し、変わり果てた神戸を見て衝撃を受けた。当時は「もう元には戻らないのでは」と思ったものだ。今改めて、よくここまで復興できたと感じる。「このまちに住み

## 鳴尾付近にも球場の歓声

「開業120周年を迎える阪神電鉄との関わりは。若い頃、阪神鳴尾駅(現鳴尾・武庫川女子大前駅)の近くに住んでいた。阪神甲子園球場にほど近く、試合の歓声が聞こえてきた。阪神タイガースが勝ったときの盛り上がりは実にすばらしい。試合のある日は子供心にわくわくしたことを昨日のように覚えてい。阪神電鉄と言えば、今でも甲子園のイメージが強い。



## 関西から世界へ発信続ける

安藤忠雄さんが設計した兵庫県立美術館(写真上。下の写真の奥)。隣の公園に、兵庫県の木であるクスノキ約250本を植え、復興のシンボルとした



また、震災復興事業で手がけた兵庫県立美術館は、阪神岩屋駅が最寄り駅。美術館の隣に公園を造り、兵庫県の木であるクスノキを約250本植えた。緑と文化の力を借りた復興を目指した。

「神戸のまちづくりへの提言があれば。かつての美しさを取り戻しつつあるが、それだけでは足りない。多くの人が訪れるには、新たな魅力が必要だ。北野の異人館や、元町の居留地

安藤さん設計の「六甲の集合住宅」模型。現在開催中の展覧会「安藤忠雄展 青春」で鑑賞できる

など、もともと観光資源には恵まれている。阪神間にエリアを広げると、ウォーリスが建築を手がけた大学もある。良好な住環境を備えた文教都市という、神戸ならではのポテンシャルをさらに生かし、「考えるまち」としての魅力づくりをしていくべきだ。

神戸市 久元 喜造 市長



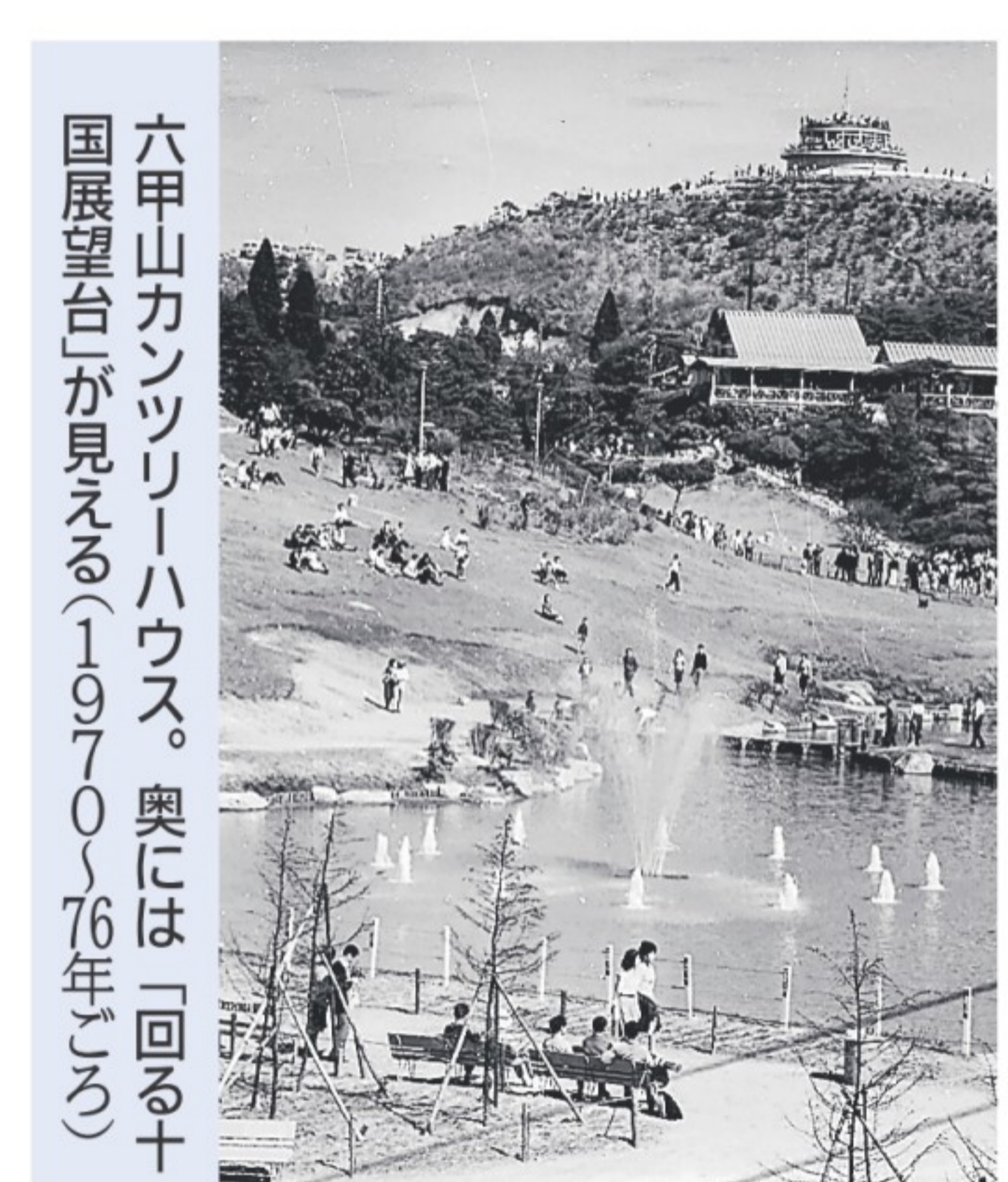
「阪神電鉄と神戸市との関わりについて。阪神電鉄が開通した時、神戸市内には神戸から深江まで14の駅が開設された。集落ごとに駅がつけられたため駅間の距離が短く、その名残からか今も乗っていると乗客の皆さんが電車を普段使いされていることが伝わってくる。駅とまちが一体化し、生活に密着している雰囲気は阪神電車ならではの。阪神大水害、震災、そして阪神・淡路大震災という苦難に直面され、神戸市も一緒になって復旧、復興に当たってそれを乗り越え、非常に深いつながりを持って

## 六甲山上の芸術祭に協賛



阪神本線の連続立体交差事業は、2019年に鉄道の高架化が完了、側道の整備・改良も進んでいる。阪神青木駅前

## 駅前駐輪場整備し魅力向上



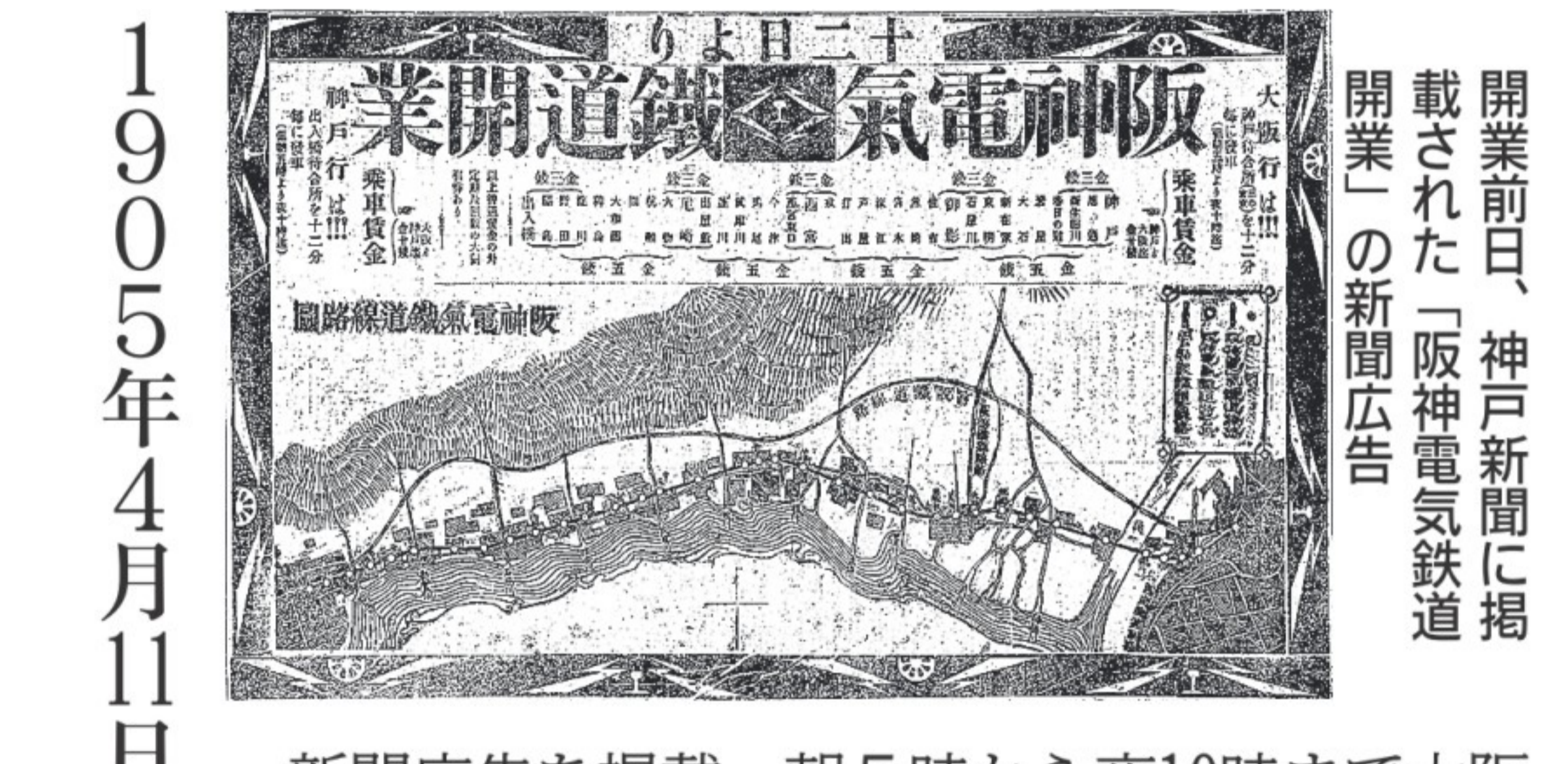
六甲山上を舞台に開催する現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」より、周逸喬「赤と緑の行き違い」

「ツ・アート」は今や関西を代表する芸術祭に発展し、神戸市も協賛している。沿線には日本酒の酒蔵が集積する。24年12月には、日本の「伝統的建造物」がユネスコ無形文化遺産に登録され、インバウンドからの注目も高まっている。

「まちづくりで取り組んでいきたいこと。1997年以降、住吉駅東側から芦屋市境までの区間で、鉄道を連続的に高架化し、

道路と鉄道の立体交差化を図る事業を進めてきた。2019年で高架化が完了し、本年度には側道の整備も踏切る。これに伴い11カ所の踏切除却、33路線の交差道路、3路線の側道が整備・改良され、安全・安心にぎわいのあるまちづくりが実現する。

## 阪神電鉄ダイアリー Hanshin



1905年4月11日 開業前日

開業前日、神戸新聞に掲載された「阪神電気鉄道開業」の新聞広告

新聞広告を掲載。朝5時から夜10時まで大阪・神戸を12分ごとに発車し、定期および回数の大割引券ありとも。乗り心地よい車両で34もの駅を結んだ「あたたかさ」「ほんまもん」「先進性」は開業時から。阪神の成功で、都市間電気鉄道は全国に広がりました。

1905~

東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル

阪神電気鉄道は、甲子園開発の一環として、1930年、武庫川畔の景勝地であった鳴尾村小曾根に鉄筋コンクリート4階建て・延べ面積2,000坪の「甲子園ホテル」(1944年)を開業。設計者は帝国ホテルをつつしたフランク・ロイド・ライト門下の連藤新。群を抜く広大な敷地に端麗な建築美と鬱蒼たる庭園美を兼ね備えた華やかなホテルは、阪神間の社交クラブとして存在し、当時「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と並び称されました。

“ほんまもん”の眺望・夜景を楽しめた六甲山上のホテル

一方、避暑地として注目されていた六甲山では、1934年、天狗岩付近に「六甲オリエンタルホテル」(2007年)を建設、更に、1936年には旅館「雲荘」(1998年)を開業しました。昭和~平成にかけて、多くの宿泊者が眼下に広がる素晴らしい眺望・夜景を楽しんだことでしょう。六甲オリエンタルホテルの遺構である「風の教会」(設計は安藤忠雄氏)は、現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート」の会場としても活用されています。

甲子園ホテル(現:武庫川女子大学 甲子園会館)

私たちが届けてきた「ほんまもん」とは

120年ずっと、想いはひとつ

「たいせつ」ストーリー

THE RITZ-CARLTON

~2025 to the future

いつの時代もお客さまに最高のおもてなしを

1992年に着手した「阪神グループ挙げての二十一世紀への新しい挑戦」と位置付けた西梅田開発事業。グローバルなビジネスの拠点にふさわしいラグジュアリーホテルとして、1997年、ザ・リッツ・カールトンの日本第一号となる「ザ・リッツ・カールトン大阪」をハービスOSAKA内に開業しました。同ホテルならではのきめ細かいサービスは極めて高い評価をいただいています。お客さまに最高のおもてなしを提供したいとの想いは、いつの時代も不変です。

ザ・リッツ・カールトン大阪 客室

ザ・リッツ・カールトン大阪

Hankyu Hanshin Toho Group

「たいせつ」がギュッと。 Hanshin Group

阪神電車が1905年に開業して120年。お客さまの「たいせつ」に向き合い「阪神らしさ」を育んできました。つながりが生む「あたたかさ」。プロフェッショナルが生み出す「ほんまもん」。共感から生まれる「先進性」。お客さまの「たいせつ」がギュッと。つまったモノやコトを生み出しお届けしていく、阪神グループの物語がここにあります。

阪神「たいせつ」ストーリー

開業120周年 特設サイト

120th 阪神電気鉄道120周年